

令和6年12月3日

あきる野市議会議長 殿

会 派 名 自由民主党志清会

代表者氏名 堀江 武史

会派の（ 調査研究 ）・研修）報告書

このことについて、下記のとおり実施したので報告します。

記

1 調査研究または 研修実施日	令和6年10月16日（水）～ 令和6年10月18日（金） 2泊 3日
2 調査研究または 研修の場所	行政視察及び第86回全国都市問題会議 ----- 1日目 半田市役所（半田市議会会議室） ----- 2日目 アクリエひめじ（姫路市文化コンベンションセンター） ----- 3日目 アクリエひめじ（姫路市文化コンベンションセンター）
3 調査研究事項 または研修名	1日目 総合型地域スポーツクラブについて ----- 2・3日目 健康づくりとまちづくりについて ----- ～市民の一生に寄り添う都市政策～ ----- 基調講演、主報告、一般報告、パネルディスカッション
4 参加者氏名 （ 11名）	天野正昭、臼井建、浦野治光、国松まさき、窪島成一、 ----- 子籠敏人、中村一広、ひはら省吾、堀江武史、村野栄一、 ----- よしざわゆたか
5 調査研究または 研修の概要及び 感想等	別紙のとおり

※ 自家用車又はレンタカーを使用した場合は、必ず自家用車・レンタカー使用報告書を添付してください。

【概要】

第1日目 10月16日(水) 13時30分～15時30分

視察地 愛知県半田市役所(教育委員会事務局教育部スポーツ課)

半田市の概要

計量特定市 地方公共団体のうち、計量法第10条第2項の規定について定める政令(計量法施行令第4条)により、同法に定められた計量に関する職務を都道府県に代わって行うことができる市のこと。

面積 47.42km² 人口 114,686人(令和6年10月1日現在)

半田市の象徴 山車、赤レンガ等

ミツカン(調味料、加工食品等)の本社が所在

将来都市像 人がまちを育み まちが人を育む チャレンジあふれる都市・はんだ

一般会計予算 488億円(令和6年度 一般会計) 財政力指数 0.96(令和5年度)

※文教厚生委員長の挨拶後、教育部スポーツ課の各担当者から説明を受ける。

1 総合型地域スポーツクラブについて

(1) 経緯

①平成6年度 自発的に学校と地域(成岩地区)のクラブづくりが開始される。

②平成7年度 地域組織(成岩)が文部科学省から「総合型地域スポーツクラブ育成モデル事業」に指定される。(後に、全5中学校区に展開)

③平成7年度 成岩スポーツクラブ設立(成岩中学校区)

④平成10年度 全市に戦略プランをもって開始される。(財源 文部科学省事業)

⑤平成11年～平成15年 各中学校区にスポーツクラブ設立(全5中学校区)

⑥平成15年 ナラワウイング竣工(市施設)

(2) 総合型地域スポーツクラブの概要

スポーツ基本法に基づくスポーツ基本計画では、地方公共団体の人口規模や高齢化などの地域の実情に留意しつつ、各市町村に少なくとも1つは総合型地域スポーツクラブが育成されることを目指すとありますので、半田市では、全国に先駆けて当該クラブの育成に取り組んできた。今後も、地域、学校及び行政が連携して当該クラブがより地域に融合するように努めるとしている。

※国等補助金合計(H7年度～H19年度) 75,000千円

※市内5地区会員数6,962人(一般3,634人、中学生1,248人、小学生2,080人)

①成岩地区(成岩中学校内) NPO法人ソシエ成岩スポーツクラブ 平成8年設立
加入者数(R6.2現在)全会員2,686人(一般1,701人、中学生367人、小学生618人)

年会費 入会金3,000円、家族会員30,000円、一般24,000円、小中学生24,000円

②亀崎地区(亀崎中学校内) スポーツクラブ YOUKI 平成11年設立

加入者数(R6.2現在) 全会員590人(一般221人、中学生135人、小学生234人)

年会費 入会金設定なし、家族会員は設定なし、一般2,000円、小中学生2,000円

③青山地区(青山中学校内) 青山スポーツクラブ 平成13年設立

加入者数(R6.2現在) 全会員396人(一般81人、中学生49人、小学生266人)

年会費 入会金設定なし、家族会員は設定なし、一般2,000円、小中学生1,000円

④乙川地区(乙川交流センター内) (一社)乙川スポーツクラブ 平成13年設立

加入者数(R6.2現在) 全会員1,809人(一般822人、中学生554人、小学生433人)

年会費 入会金設定なし、家族会員は設定なし、一般3,000円、小中学生2,000円

⑤半田地区(半田中学校内) 半田地区スポーツクラブ 平成15年設立

加入者数(R6.2現在) 全会員1,481人(一般809人、中学生143人、小学生529人)

年会費 入会金設定なし、家族会員は設定なし、一般3,000円、小中学生2,000円

(3) 基本的な方向性

半田市スポーツ推進計画(R12年度まで)によると、

基本理念 ①だれでもスポーツに親しめるように

②いつでもスポーツに親しめるように

③どこでもスポーツに親しめるように

④いつまでもスポーツに親しめるように を目指している。

数値目標 ①成人 市民のスポーツ実施率(週1回以上) 65%(実績R5年52.5%)

②総合型地域スポーツクラブの会員数 8000人(実績R6年6962人)

(4) 総合型地域スポーツクラブの活動支援

①学校体育施設開放 当該クラブが優先

②総合型地域スポーツクラブの連携事業 協働・支援、スポーツ教室の委託、ボランティア指導員の研修、全クラブとの情報交換など

③地域認定スポーツアシスタント 5地区クラブ指導者に資格付与(市独自認定基準 R6年4月現在 280人) ※3年間ごとに更新あり。社会体育施設利用は減免あり。

(5) 中学校部活動の連携

- ①H6 年度～ 部活動検討委員会発足。学校週 5 日制下での部活動の在り方を研究。
- ②H10 年度 部活動は土日実施しない方針となる検討会答申(生活のゆとりを確保)。
- ③H13 年度 答申を踏まえ、原則、土日行わない。※課題の整理と解決を経て
- ④H24 年度 祝日を含め、学校長の判断で部活動を実施可能としたが。
- ⑤R6 年 9 月～ 土・日・祝日は原則行わず、スポーツクラブに任せる(補助金交付)。

<感想>

以上のような説明の後に、次のような主な質疑応答があり、その後、成岩地区総合型地域スポーツクラブハウスを視察した。

(質疑応答)

①現状についてだが、中学校で地域の指導者が入っている部活があれば、理由や今後の方針などは。

⇒回答：中学校の部活動は、令和 6 年 9 月から土・日・祝日の活動を原則廃止した中で、これまでに中学校の部活動への地域の指導者の参入は基本的には無い状況である。今後、平日以外は地域での活動(スポーツ・文化芸術)になるが、その中では地域の指導者及び地域団体に登録した教諭などが指導することになる。

②設置の経緯についてだが、中学校体育館改修に伴い、青少年健全育成委員会を基に学校地域共同利用施設として生まれ変わったと思うが、立上げの成り立ちや、指定管理に至るまでの流れなどは、どのようなものであったか。

⇒回答：当初は、単に中学校体育館改築(建替)計画で進めていたが、地元から学校体育施設と社会体育施設の複合した施設の建設を求める要望が出され、市において検討し、市議会にも理解を得たうえで建設に至った。基本的には地域が率先して進めた事業である。

③運営についてだが、成岩地区総合型地域スポーツクラブハウスは、学校地域共同利用施設とのことだが、運営は NARAWAWING の指定管理なのか。また、その場合、半田市立成岩中学校体育館を兼ねていることだが、運営の概要、難しさなどは。

⇒回答：指定管理委託事業者は NPO 法人ソシオ成岩スポーツクラブになる。運営の概要は、指定管理施設であるものの市の施設であるため、使用に関する優先順位は、
・半田市事業、・地域事業、・当該法人事業、・その他事業となる。また、開設当時は中学校部活動と当該法人事業の混在に調整を要したようである。

以上のような状況や現地での視察を踏まえて、半田市は、全国に先駆け全中学校区で総合型地域スポーツクラブを設立し、運営されてきたが、地域と中学校との連携は発展段階にあり、市がそれを支援し、当該クラブへの補助金交付で自立を推進している最中である。一方、当市の現状を見ると、教員の働き方改革など部活動の在り方などの現状を踏まえた課題整理の段階であるので、当会派として、地域型スポーツクラブの推進を図るうえで、今後、半田市の方向性と実績を活かしながら、当市ならではの地域型スポーツクラブを構築していくための大切な視察となった。

第2、3日目 10月17(木)から18日(金) 9時30分～翌日11時50分

参加・視察 全国都市問題会議(兵庫県姫路市で開催)

姫路市の概要

面積 534.56km² 人口 519,499人(令和6年11月1日現在)

姫路市の象徴 国宝姫路城

将来都市像 ともに生き ともに輝く にぎわい交流拠点都市 姫路

一般会計予算 2,361億円(令和6年度一般会計) 財政力指数 0.87(令和4年度)

※開会式後、基調講演から会議が始まる。

1 会議内容 (1)～(3) 第1日目、(4)第2日目

(1) 基調講演 生命を捉えなおす ～動的平衡の視点から～

講師 生物学者、青山学院大学教授 福岡 伸一 氏

概要項目 動的平衡の概念をもって、私たちの身体の柔軟で適応力がある様を説いたもの。動的平衡とは、私たちが食べたものは、身体を構成する分子と絶え間なく交換し続けており、生命の構成成分を先回りして分解し、乱雑さによって崩壊していく速度よりも早く再構成され続けることでバランスが保たれていること。

(2) 主報告 市民「LIFE」(命・しらし・一生)を守り支える

姫路の健康づくりとまちづくり

講師 兵庫県姫路市長 清元 秀泰 氏

概要項目

- ①市民による主体的な介護予防を促進
- ②ウォークブル(造語⇒歩きたくなる)まちづくり
- ③ICTを活用した健康づくり
- ④未来を担う子どもたちの健やかな成長を支援

(3) 一般報告

①健康なまちづくり

講師 筑波大学システム情報系教授 谷口 守 氏

概要項目 市民の健康づくりにおけるまちづくりの重要性

②都市そのものを健康にするまちづくり ～ストレスを軽減しリフレッシュできるまち～

講師 千葉県流山市長 井崎 義治 氏

概要項目 健康都市という考え方との出会い

～つくばエクスプレ沿線区画整理事業と緑の回復策～

③IT/AI の健康分野への適用例 ～姫路市の健康データ解析と歌唱による誤嚥予防

講師 兵庫県立大学副学長 畑 豊 氏

概要項目 2008年から2012年の姫路市の健康診断データを用いた解析

(4) パネルディスカッション

テーマ 健康づくりとまちづくり ～市民の一生に寄り添う都市政策～

コーディネーター 中央大学法学部教授 宮本 太郎 氏

パネリスト 高岡病院児童精神科医 三木 崇弘 氏

NPO 法人日本栄養パトネット理事長 奥村 圭子 氏

長野県茅野市長 今井 敦 氏

大阪府泉大津市長 南出 賢一 氏

概要項目

①心理社会面から見た子どもの健康

②食から1人1人の望む暮らしを支援する栄養パトロール事業

③未来型「ゆい(結)」で紡ぐ健康高原都市・茅野の構築

④「未病予防対策先進都市」をめざした官民連携、市民共創のまちづくり

<感想>

我会派で2日間にわたる全国都市問題会議に参加した。

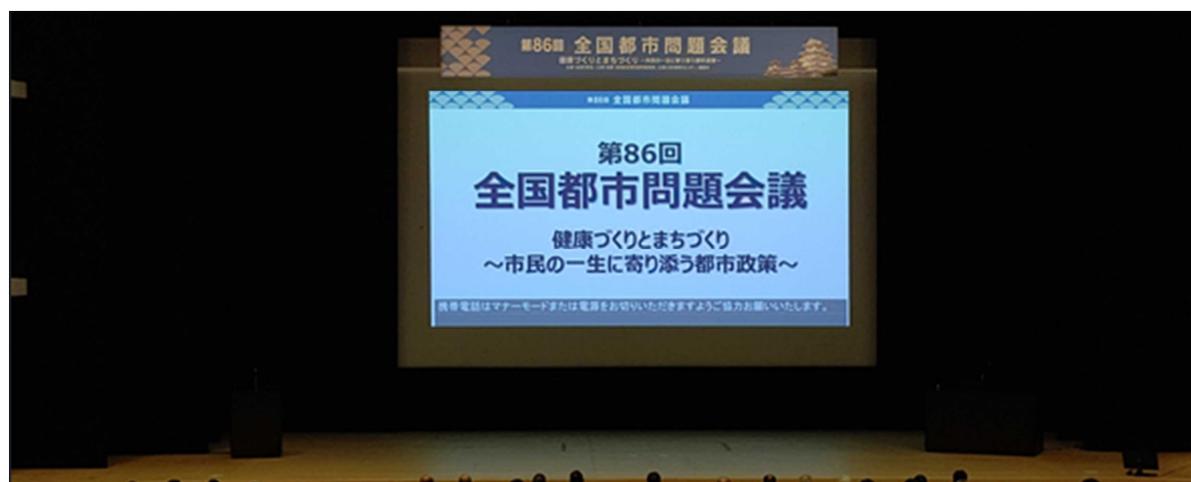
テーマは健康づくりとまちづくりであり、様々な視点で健康とまちづくりの講演や話し合いがなされた会議であり、現在の高齢社会を迎えた日本のテーマにふさわしいものであった。高齢社会における健康づくりは共通した課題であるので、当市の市民が生涯を通じて健康で安心して暮らせるなどの施策展開にも役立つ内容であり、今後の取り組みに活かしていきたい。



半田市説明



成岩地区総合型地域スポーツクラブハウス



全国都市問題会議会場